

参加者、
秋木、浅田、市ノ川、北島、小海、田中、
中島(邦)、並木、町田、安田、山岡、遊佐、
ゲスト一西、松浦、
かわらばん-中島邦雄 撮影-小倉玲子

BMW RS Club

かわらばん

Jul 2, 2000

凄い夕立の中で山菜、イワナ、蕎麦を心よりを楽しみ、雨上がりの牧場でニッコウキスゲを愛でたそんな一日、

一時、空の底が抜けたかと思われるような激しい雨が叩きつけ、開いた戸口から霧のような飛沫が吹き込んできました。その雨があたかも流れのように坂道を駆け下り、雷鳴が轟き都会ではとてもお目にかかるないような光景に、我々は暫し呆然とそれを眺めていました。まさに自然の凄さを見せつけられた思いです。
その雨が通り過ぎると柔らかに薄日が差し始め、雨に洗い流された木々の緑が一段とその輝きを増し、カスミのように沸き上がった雲が、周囲の山々の端(は)をソフト抱くかのように包みこみました。
「音立て森を抜け行く白雨(ホライ)かな」という一句を思い起こさせる、奥日光栗山村のそんな昼下がりでした。

午後から雨の確率が30%以上の時は、自動的にその日のツーリングは中止と決まっていますが、予報では栃木が40%そして群馬にいたっては60%で「こりゃダメだは」とは思ってみたものの、外はピーカンの天気です。今日の幹事役の安田さんにも中止の確認を取りましたが、彼は一応は集合地へ行き、知らずに来た人に説明してくれるとのことなので、私もバイクの充電を兼ねて冷やかし半分に、東北道「蓮田SA」へ向かいました。今日も昨日同様に梅雨の晴れ間の激しい暑さで、心の中では「こんなクソ暑い日に走らないで良かった、早いところ戻り涼しい部屋で本を読もう」とほくそ笑んでいました。エンジンからの熱が股火鉢を思わせる暑さです。
ところが12人も集まると中止にする話は何処かに行ってしまい「軽く走って蕎麦でも食べよう」ということに衆議一致し、なんと奥日光の栗山村で蕎麦を食う話になりました。宇都宮-日光方面出口に向かって出発だ!! 栃木県は午後から40%という雨の予報が気になりますが、もう破れかぶれで暑い中を飛ばし、30~40分後の十時前にはもう日光の近くまで来てしまいました。いや~凄い暑さに辟易です。
実は家を出る前に「すぐに帰って家で朝飯を食うよ」と言って出てきたのですから自分でも呆れてしまいました。「エンジンが吹けないで100キロしかでないんだよ~」と長老の町田さんが遅れて到着。すぐにクラブ御用達のメカ、北さんと安田さんが道具を広げましたが、キャブかポイントで簡単には直らず、そのままで出発しました。

快晴の今市から栗山方面に向かって走ると、遠くの山に黒い雲がかかり、うっそうとした杉木立を抜けると急に大粒の雨が落ち始めました。水たまりに入る度にエンジンから白い蒸気が吹き上がり、蒸し風呂のようです。此處で市ノ川さんから無線が入り、合羽が無いから引き返すこと。しかし其処を過ぎると雨は上がり、大笹牧場へ着いた時には、ニッコウキスゲの咲く中で牛が静かに草をはんでいました。ゲストの松浦さんが合流です。二つのグループに分かれて走り、ここで先行メンバーを探しましたが姿が見えず、きっと一足先に「北の路」へ向かいビールを飲んでいるだろうと、すぐに栗山村の店に行ってみたものの何処にもバイクの影も形も見えません。「きっと我々を待っていて遅れるんだよ、すぐに来るから先に始めよう~」と自家製鶏ローストと行者ニンニク等の珍しい山菜盛り合わせで飲み出しました。「いや~旨いね~~」と互いに顔を見合わせ、なんとも優雅な気分に浸っていると、その時にこの冒頭に書いたような篠つく大雨が突如として降り始めました。

あまりの凄さに誰もが黙って外を眺め、我々のすぐそばでは真っ赤に燃える炭火の回りに、注文したイワナが良い匂いで焼けていました。うまく説明がつきませんが、何か不思議なユックリとした気分にさせられました。雨が通り過ぎると日が差し始めイワナも焼き上がり、ホットしたのか町田さんがビールを追加し、仕切り直しの感で飲み始めました。「やや限度すごすビールも旅なれば」という山本紅園の句が、まるで我々の為に有るかのように思えました。名物の一升蕎麦が打ち上がり、サメ皮のおろし板にワサビを添えられ、山菜のテンプラも豪華に並びました。はぐれた仲間から電話が入りましたが、こうなると電話などはもう上の空で、誰もまともに聞いてはいません。引き返したメンバーはビショ濡れだったようですが、我々は爽やかそのものです。

心から昼飯を満喫し雨で奇麗になったバイクで、再び大笹牧場から霧降有料道路へと向かいました。雨上がりで青空が顔を出し、ニッコウキスゲの咲き乱れる左右の牧場では、爽やかにウグイスがさえずり、輝く緑の中で牛や馬が草をはみ、ご機嫌でアクセルをふかすと、以前にアイガーの北壁を仰ぎ見ながら、夢一杯で山岳道路を走った、希望に満ち溢れた遙か若い頃を思い出しました。下を覗くと尻がムズムズしてくる六万尺橋にかかると、雨上がりの大気の中でますます周囲の眺望が広がり、山々に雲の絡み付く様は、まさに墨絵を見るような幽玄の世界で、バイクを停めて暫しその見事さにひたりました。ミヤマツツジの咲く頃は、その花が霧に霞む中でポンボリに灯を点したように見えますが、今回は少し時期が遅かった感じで残念でした。それでもニッコウキスゲの爽やかさが、いかにも夏の到来を感じさせてくれました。

山を下っていると誰かから無線が飛び込んで来ましたがハッキリとは聞き取れません。日光の町に入るとやや車が増え始めました。町田さんが先頭で走っていますが、そばに寄って聞くと、「道は分からないよ」とのこと。
安田さんが前に立ち、看板通りに日光有料道路に入り、宇都宮へ向けて走りました。朝のうだるような暑さが、飛ばすと肌寒いような天気に変わり、何か特をした思いでした。



東北道に入ってすぐ先の「大谷PA」に一応は寄ると、ナント会長の田中さんが我々の安否を気遣つて待って居てくれたのには大感激でした。

Uターン組は雨をしたたらせながら何かを食べて帰ったそうですが、余りに豪華な昼飯を食べた我々は、些か罪悪感をおぼえました。

矢張り平素の善行はカミ様がチャント見ていて下さるものと心より感じた一日でした。帰ってしまった皆様とは何時かまた行きましょう。

これで今年前半のツーリングは終わり九月までは夏休みです。若いパパは余り家庭サービスをし過ぎないようにご用心。年を取ってから「若い頃にはあんなに元気でステキだったのに」と懐かしさを言われるのがオチですぞ!! この週末は入谷鬼子母神の朝顔市、そしてそれの終わったその晩から四万六千日のホオズキ市が始まり、トリは大川(翻川)の川開き。さあ いよいよ本格的な夏の到来です。バイクも体もチューンナップして、九月には元気に顔を合わせましょう。今回の幹事の安田さん。今日もいろいろ有りました。ご苦労様でした。